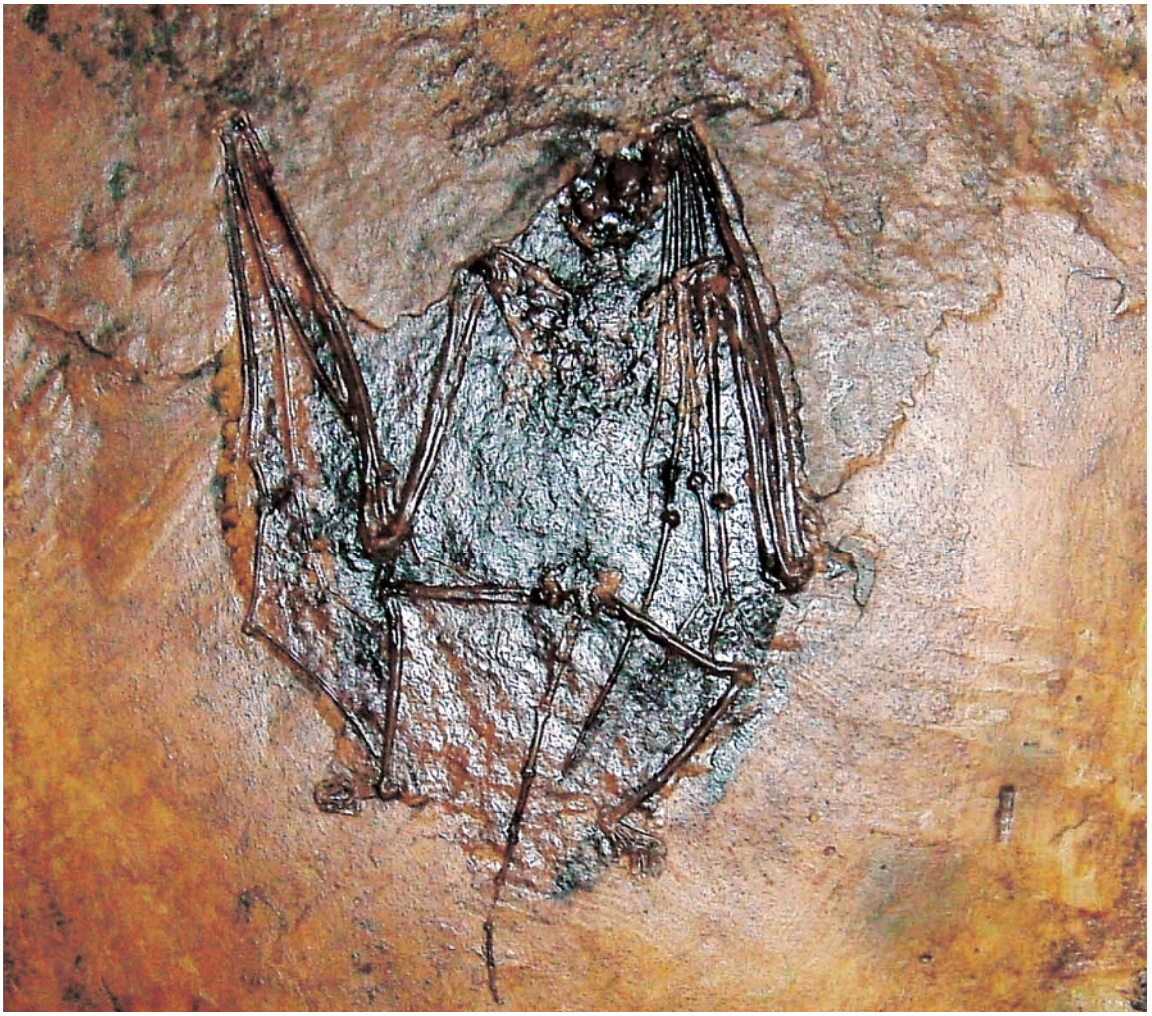
徳島県立博物館
No.62

博物館ニュース



ドイツ・メッセル産コウモリ化石（*Palaeochiropteryx tupaiodon*）（徳島県立博物館蔵）

ドイツのフランクフルトの南西30kmに位置するメッセル地域には、古第三紀始新世（約4900万年前）の湖の地層が分布しています。この地域の地層は非常にオイル質な細粒な堆積物からなり、本来の色彩を残す昆虫化石や軟体部の印象を残す脊椎動物化石など、通常、化石として残らない類い希な保存状態を示す動植物化石を多く産出します。

上の写真のコウモリ化石（*Palaeochiropteryx tupaiodon*）も良好な保存状態を示しており、コウモリの特徴である翼の骨格や翼の膜までも残されています。コウモリは化石としてたいへん残りにくいものですが、メッセル地域はその数少ない例外のひとつです。この地域で産出するコウモリ化石は地質学的にも最古級のもののひとつであり、コウモリの初期の系統進化を理解する上で重要な化石といえます。この種類はメッセル地域で見つかっている3属のコウモリ化石の中で最も小さな種類です。

メッセル地域は、学術的重要性から1995年に世界遺産に登録され、現在では化石の採集は制限されています。

（地学担当：辻野泰之）

蜂須賀家の御家騒動

山川　浩實

はじめに

四国最大の大名、蜂須賀家において、1633年（寛永10）に勃発した御家騒動は、「益田豊後事件」と呼ばれる大きな事件でした。この御家騒動は、門閥家老の益田家と官僚的家老の長谷川家との対立を背景に発生したもので、蜂須賀家の存続に関わるきわめて重大な事件でした。

この御家騒動は、その後の蜂須賀家の政治体制に大きな影響を与え、政治体制が軍事支配体制から官僚支配体制に移行していく一つの大きな契機となりました。そうした意味で、この事件の持つ意義は大きいものがあります。ここでは、益田豊後事件に関する基本的史料などから、蜂須賀家の土台を大きく揺るがせた御家騒動の内容について紹介したいと思います。

御家騒動の背景と顛末

蜂須賀家は、阿波・淡路の2国を領地とした外様の大きな大名です。その蜂須賀家の家老を務めた益田豊後は、同家の支配体制の基礎を確立した蜂須賀家政とは従兄弟に当たり、同家の一族として、重要な地位にありました。しかも、益田家は家臣団の中では、首席家老稲田家、次席家老賀島家に次ぐ家格として、軍事支配体制の中で、強大な権限を持った有力な家老でした。これに対して、益田豊後と対立した官僚的家老の長谷川越前は、蜂須賀家の家老の中では、ほぼ下位に位置する家老でした。

さて、蜂須賀家では、どのような御家騒動が起こったのでしょうか？

1633年（寛永10）、海部郡の知行地をめぐる益田豊後の不正が蜂須賀家の役人によって摘発されました。その結果、豊後は家老職と領地とを没収され、投獄されるという、従来、まったく例を見ない驚くべき事件が発生しました。豊後の直接の不正は、私腹をを肥やすため、海部郡内の桧などの良木を密売したことをはじめ、自己の領地であった海部郡の農民に重い年貢を強制したことでした。そのため、100人近い海部郡の農民が土佐国に逃げ込むという、きわめて大きな騒動に発展しました。そのため、豊後は責任を問われ、13年間にわたって、名西郡大粟山（神山）の山中に投獄されました。すなわち、蜂須賀家では多数の農民の逃散事件を発生させた豊後に対して、同家の一族として強大な権限を持った家老の立場を否定し、豊後を長年にわたって、山中に投獄するという、重臣の処分としては、きわめて厳しい刑罰を断行したのでした。

これに対して、豊後は自分に対する処罰を恨み、義弟の金沢藩主前田家の浪人阿彦佐馬丞を利用して、徳川幕府に蜂須賀家の不正を訴えました。豊後が訴えた13箇条の中でも、そのうちの3箇条は、特に蜂須賀家の存続に関わるきわめて重大な事項で、大名を統制した法律である「武家諸法度」に大きく違反するものでした。その不正とは、幕府が禁止した大船の建造、キリシタン疑惑の未調査、そして幕府への謀叛という、きわめて重大なものでした。このことが事実であれば、蜂須賀家は幕府から、ただちに取りつぶされる危険な運命にありました。蜂須賀家では、まさに例のない最大の危機を乗り切るため、若い藩主忠英を中心にして、対策が練られました。この時、参勤交代のため、江戸にいた忠英は、危機を打開するため、国もとの家老6人に対して、事件の解決策や経過などを報告すると共に、細かい指示をあたえた長文の書状を書き送っています。現在、その書状は当館が所蔵しています。この書状が、益田豊後事件に関する基本的史料として、高く評価される史料です。

この史料は、1645年（正保2）に制作されたと考えられる書状で、豊後が幕府に訴えた13箇条に関して、蜂須賀家が調査の開始を幕府に願う直前の緊迫した同家の情勢を示す史料です。この史料によれば、次の4点について、蜂須賀家の重要な情勢を知ることができます。

1）江戸もしくは京都・大坂などにおける動きに関し、蜂須賀家が事件に関わるあらゆる情報を収集していたこと。

2）藩主忠英の命令によって、事件に関わる重要な事項に関し、蜂須賀家内における厳重な機密の保持を行ったこと。

3）金沢藩前田家による同藩の浪人阿彦佐馬之丞の殺害の噂に関し、蜂須賀家が金沢藩に対し、事実の有無を明瞭に確認したこと。また、阿彦が金沢藩によって殺害された場合、蜂須賀家の立場が不利になるため、金沢藩の態度によって、蜂須賀家は阿彦に対する金沢藩の手出しをいっさい阻止する決意であったこと。

4）この頃、事件解決の展望は、「爰元ニても沙汰なし之分ニ候」とあり、蜂須賀家をめぐる形勢はいちじるしく不利的な情勢で、断絶の危機的な状況に直面していたことが推察される。そのため蜂須賀家では、幕府などの重要な人物の指示を受け、最後の挽回をはかるため、あらゆる対策を練っていることを家老に報告し、本国におけるいっさいの動揺を制止したこと。

幕府では、13箇条の訴えに対して、豊後と長谷川越前とを訴訟を裁決する幕府の評定所で対決させ、裁決することとなりました。その結果、重大な事項であった3箇条は、越前の反論によって、いずれも豊後の偽りであることが判明しました。そして益田豊後事件は、蜂須賀家側の全面的な勝利で決着し、蜂須賀家は危機的状況を回避しました。一方、豊後は幕府の採決後、藩主忠英に預けられ、江戸から阿波へ護送中、病死しました。しかし、蜂須賀家では、豊後がたまたま病死せず、阿波に護送された場合、藩主に対するいちじるしい反逆行為として、豊後を最高の重罰である斬罪の処分を行うつもりでした。

この事件は、蜂須賀家との一族関係をバックに、権力を乱用した家老と幕藩体制の中で、新しい時代に立ち向かおうした官僚的な家老長谷川越前との対立が原因でした。幕府でも、この事件を重視し、『徳川実紀』に裁決のようすを記録しています。こうして、蜂須賀家の土台を大きく揺るがせた御家騒動は、13年間におよぶ長い年月を費やして終結しました。

おわりに

益田豊後事件が終結した後の蜂須賀家の政治体制は、大きく変化しました。幕府による一国一城令の施行によって、阿波九城が廃棄され、軍事支配体制が崩壊しました。これを契機に政治体制は、益田豊後事件も大きく影響し、官僚支配体制へと移行しました。その後、多くの軍事に秀でた家老が淘汰され、権力の集中を回避するため、家老5～6名による仕置体制が確立しました。これによって、藩主が直接政治を行う直仕置の体制から、仕置家老が直接政治を行う家老の仕置体制に移行しました。これにともなって、支配機構の基礎的な役職も整備され、しだいに機構の整備が行われました。

このように、益田豊後事件は蜂須賀家の政治体制に大きな影響をあたえた事件として、とらえることができます。　（歴史担当）

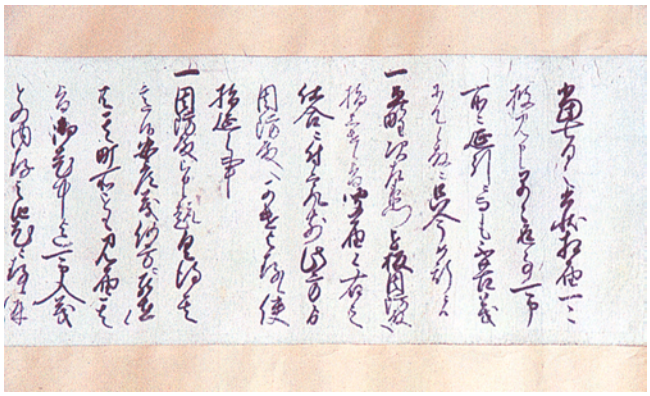


図1　2代徳島藩主忠英書状（巻頭部）

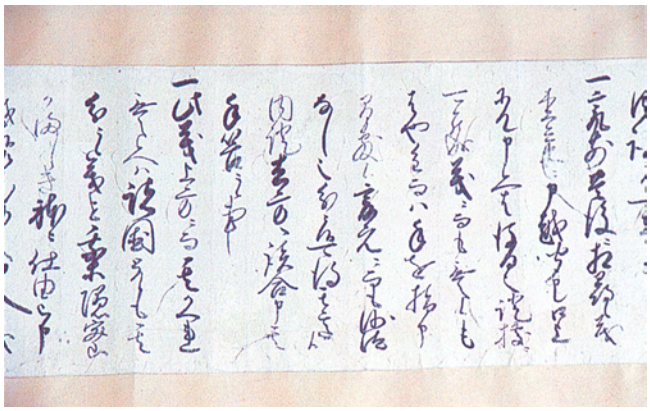


図2　同書状（中軸部）
蜂須賀家の危機的状況が国もとに報告される。

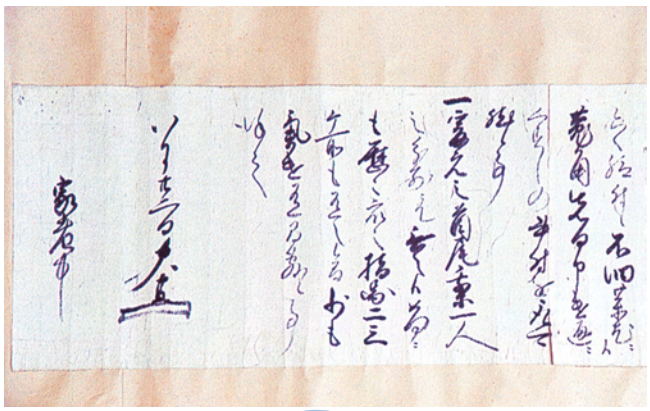


図3　同書状（巻末部）

加茂谷川沿いの遺跡

加茂谷川は総延長約8kmほどあり、桟敷峠を源流として三加茂町の中央部を北流し、吉野川に合流しています。鍛冶屋敷から上流では山が川に迫り、深い谷となっています。今回は加茂谷川沿いの山や谷の部分に立地する遺跡、丹田古墳と縄文時代の加茂谷川岩蔭遺跡群について紹介します。

図１　吉野川北岸から加茂谷川を望む

丹田古墳は国指定の史跡で、加茂谷川左岸の加茂山から北東に伸びる標高320ｍほどの尾根の先端部に立地し、ここからは、眼下に加茂谷川や吉野川を一望することができます。

墳丘は結晶片岩の割石を積み上げた積石塚で、前方部を尾根の上方に向けた前方後方（円）墳です。全長35ｍ、前方部長さ約18ｍ、後方部は17ｍ×17.5ｍです。前方部は平坦で、後方部よりも一段低くなっており、後方部の墳頂には白色円礫が数多く散布しています。後方部ほぼ中央に古墳主軸と平行して東西に長い竪穴式石槨が設けられて、長さ4.51ｍ、幅1.3ｍ前後で、高さは1.2～1.3ｍです。石槨の壁は結晶片岩を木口積にしており、最初は地面から垂直に、その後、しだいに内側に持ち送って合掌式としています。石槨内からは獣形鏡、鉄剣、鉄斧などが発見されています。この古墳は古墳時代前期でも古い時期のものです。

加茂谷川岩蔭遺跡群は、新田神社付近にある１～4号岩蔭と、さらに上流の5号岩蔭からなり、田中猪之助氏と北川右二氏によって見つけられました。1、2号岩蔭遺跡と5号岩蔭遺跡は1970～1973年に同志社大学によって調査されており、県の史跡に指定されています。

図２　丹田古墳の竪穴式石槨内部

同志社大学の調査によって、縄文土器、石器類、骨角器類、動物の骨や角、貝類などが出土しました。５号岩蔭遺跡からは縄文時代早期の押型文土器が発見されています。押型文土器はとんがり底で、山形文、楕円文、複合鋸歯文を彫刻をした棒を土器の表面で転がして文様をつけています。

岩蔭遺跡は狩りのためのキャンプサイト的な遺跡と考えられていますが、矢の先につける石鏃がまったく見あたらない点は注意しなければいけません。また、ハマグリ、オキシジミなど海にすむ貝類が出土しているので、瀬戸内海あるいは紀伊水道方面との交流を考えなければなりません。

丹田古墳の副葬品及び加茂谷川岩蔭遺跡群の出土品は三加茂町立歴史民俗資料館に展示されています。資料館は国道192号線沿い、JR徳島線の三加茂駅からも歩いて１分とかからない交通至便の場所にあります。資料館で出土品の見学や遺跡へのガイダンスを済ませた後、古墳や岩蔭遺跡の見学へと出かけられればよいかと思います。新田神社から加茂谷川5号岩蔭まで約3,000歩、ゆったりと歩いてみませんか。

（考古担当：高島芳弘）

平成18年度第１回企画展

「奇跡の化石たち」

サソリの一種
ブラジル・クラト層産
（徳島県立博物館蔵）

生物はそのすべてが化石になるわけではありません。生物が死ぬと、その体は様々な要因によって破壊されてしまいます。地層中から発見される化石は、いくつもの苦難をのりこえ保存されたものなのです。

発見される大部分の化石は骨や貝殻などの硬組織のものです。しかしながら、特異な条件のもとでつくられた地層からは、例外的に皮膚や筋肉などの軟組織の痕跡や体節や関節が完全につながった状態を保つなど、奇跡的な保存状態をしめす化石が発見されます。

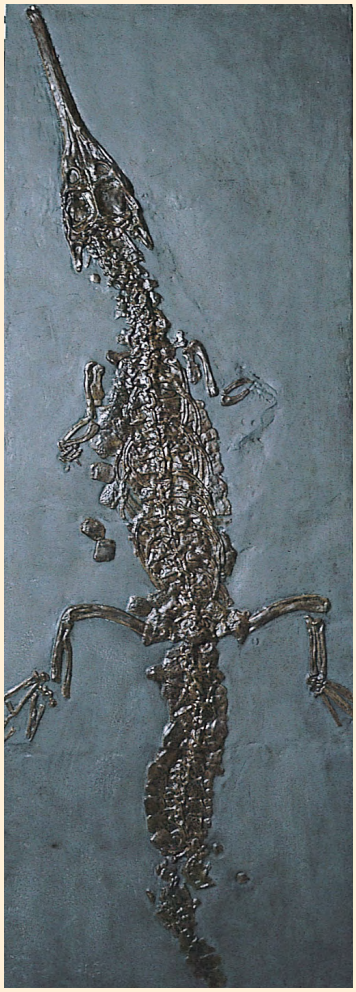
本企画展では、そうした世界的に有名な保存状態のよい化石をとおして、生物が化石になるまでのプロセスについて紹介します。

会　期　平成18年4月28日(金)～6月18日(日)

会　場　博物館企画展示室

観覧料　一般200円／高校・大学生100円
小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引、土曜日・日曜日・祝日の小・中・高校生、学校の遠足は無料

琥珀に保存されたアシナガバエ科の一種　バルト海産



〈上〉
ファコプス（三葉虫）
ドイツ・ハンスクリュック産
（徳島県立博物館蔵）

〈中〉
ブナ
栃木県・塩原層群
（徳島県立博物館蔵）

〈下〉
テレオサウルス（複製）
ドイツ・ホルツマーデン産
（徳島県立博物館蔵）

展示の構成

（１）化石になるまで

（２）世界の保存のよい化石
- エディアカラの化石／澄江の化石
- バージェスの化石／オルステンの化石
- ハンスクリュックの化石／メゾンクリークの化石
- ホルツマーデンの化石／ゾルンホーヘンの化石
- サンタナ・クラト層の化石／レバノン白亜紀層の化石
- グリーンリバー層の化石／メッセルの化石
- 琥珀の中の化石

（３）日本の保存のよい化石
- 神戸層群の化石／師崎層群の化石／塩原層群の化石

関連行事

■記念講演会
日　時：平成18年5月28日(日)　13:30～15:30
講　師：前田　晴良 氏（京都大学大学院理学研究科助教授）
演　題：アンモナイトの遺骸は浮くか沈むか? ～化石化の原点を探る～
会　場：文化の森・21世紀館イベントホール

■企画展示解説
日　時：5月14日(日)・21日(日)　14:00～14:30

■木の葉化石の発掘体験
日　時：5月7日(日) 10:30、13:30、15:30（各時間先着30名）
会　場：博物館実習室

※展示会場（企画展示室）内にて各時間30分前に発行する整理券が必要です。

博物館イベント企画運営スタッフ（ボランティア）の活動

博物館では、常設展示室の活性化に取り組んでいます。平成17年度はより新しい観点からの利用促進を図るための試案として、県民参加による常設展示室を使った企画事業をすすめることにしました。9月23日（秋分の日）と11月3日（文化の日）に常設展示室内でイベントを開催することを目標にして、博物館職員と一緒にイベントの企画運営を行うボランティアスタッフを募り、活動しました。以下その様子を報告します。

1　募集（3月から4月）

これまで、博物館のボランティアは友の会の会員にお願いすることがほとんどで、本格的な公募をするのは初めてのことでした。手さぐりの状態で、3月25日（金）に募集案内を配布し、応募の受け付けを開始しました。4月24日（日）の締め切り日までに、何とか13名からの応募が集まり、職員と一緒に、イベントの企画運営スタッフとしての活動を開始することになりました。

2　説明会（5月14日　土曜日）

応募くださったメンバーに、集合してもらい、顔合わせの会合を開きました。趣旨説明のあと互いに自己紹介をし、博物館の仕事についての紹介や館内の見学を行いました。また今後の予定を話し合い、第1・3土曜日を定例の活動日としました。

3　ミーティング（6月、7月）

6月から、イベント開催に向けての実質的な活動が始まりました。6月に行われた2回のミーティングでは、どのようなイベントにしたいかなどの目標や、各々がやりたいと思うこと、できたらいいなと思うことを、自由に発言したり、紙に書き出したりしました。スタッフからは、次々と意見が飛び出し、出されたイベントの企画案は、全部で53案にもなりました。中には、職員が思いつかなかった奇抜なアイディアや、利用者の立場にたった気配りが含まれているものがたくさんありました。案が出尽くしたところで、ホワイトボードに貼りだした全案の中から、皆で実現の可能性の高いものを選び、内容を7つにまとめました。その後、それぞれのパートの責任者を決めました。ボランティアスタッフは、自ら名乗りを挙げる人ばかりで、イベント開催に向けてよい雰囲気となっていきました。

7月に入ると7つのパートそれぞれの、具体的な中身の検討作業をしました。責任者、それぞれが内容の骨組みを考え、必要な準備や人員配置を考え、皆でつめていきました。また、イベント当日の展示室内での会場配置も計画しました。9月23日に行うイベント名の総称と、実施するそれぞれのパート名が、7月23日（土）に決定しました。イベントの総称は、**「博物館Vキング～ボランティアスタッフが贈る秋の博物館まつり～」**。小学校低学年の子供たちにはやっている虫キングに、Volunteer（ボランティア）のVをひっかけました。実施するそれぞれのパート名は、**「楽しい館☆ものしりクイズ」「和歌で詠む博物館」「木と葉で昆虫づくり」「変身!!古代へタイムスリップ」「食べてみませんか？古代の食事」「あなたも化石発掘名人」「海藻おしばをつくろう」**となりました。

図１　説明会の様子

図２　企画案をまとめる様子

4　開催準備作業（8月）

8月は、スタッフ全員が集まるということはなく、それぞれのパートの責任者が、イベント開催に必要な準備を着々とすすめていくことになりました。個別に博物館に来たり、自宅で作業したりと、材料集めや実施に向けてのテスト、そして広報の準備などが地道に行われていきました。

5　ミーティングと合同準備（9月）

9月に入ると、それぞれのパートがどのようになっているのか内容の確認の話し合いが持たれました。そのほか、パンフレットや会場に設置するパネルの原案、スタッフＴシャツの原案が持ち寄られ、皆で、パネルの製作や、Ｔシャツ作りの作業もしました。また、古代米を炊く実験などを行いました。

6　会場準備（9月22日　木曜日）

目標としていた１回目のイベント開催日である9月23日前日の夕方、閉館後17時から、会場設置の準備を行いました。机やパネルを運んだり、飾り付けや必要な物品の配置などをしました。

7　第１回博物館Ｖキング開催

（9月23日　秋分の日・金曜日）

いよいよ、第1回目のイベントが開催されました。ボランティアスタッフが案を出し、つくりあげた各パートいずれも盛況でした。当日の来館者は886名で、昨年度の同日より350名ほどの増となりました。ボランティアスタッフも「できた」と実感し、やりがいを感じたようでした。

8　ミーティングと次回準備作業（10月）

1回目のイベントが終了した後、続いて2回目のイベント開催に向けての準備が始められました。2回目のイベントは、11月3日に博物館が開催する文化の日フェスティバルに合流し、バージョンアップして行うこととなりました。1回目の経験をふまえて、10月中に、あらたな材料集めや道具の改良など、準備作業が行われました。

9　会場準備（11月2日　水曜日）

前回と同様に開催日前日の夕方、会場準備が行われました。博物館が準備するスケッチ大会やクジラの標本のタッチコーナーとともに、さらに賑(にぎ)やかな会場となりそうでした。

10　文化の日フェスティバル（第2回博物館Ｖキング）

（11月3日　文化の日・木曜日）

バージョンアップした第2回目の博物館Ｖキングが開催されました。今回は、**「フルカラーLEDで貝のアクセサリーをつくろう」（阿南工業高等専門学校協賛）**や**「食べてみませんか？ドングリクッキー」「レプリカ作り」「拓本をとろう」**などの新しいメニューが出され、前回以上の盛り上がりを見せました。この日の来館者数は、1,237人でした。皆、疲れながらも、目標としたイベントを充実した思いで終了することができました。

11　ミーティング（11月19日　土曜日）

無事イベントを終了し、最後に半年間のイベント企画運営スタッフの活動を振り返りました。ボランティアスタッフからは、「活動を通して博物館の活動をより深く知ることができた」ことや、「自分の特技を活かしたイベントを開催できて楽しめた」などの感想が出ました。また、今後の展示室の活性化の案のほか、博物館のボランティア活動のあり方などの意見もありました。

ボランティアスタッフとともに活動した職員にとっては、学ぶことの多い半年間でした。今後、この成果を継承・発展していくための取り組みを考えていきたいと思っています。　（庄武憲子）

図３　9月23日「木と葉で昆虫づくり」の様子

図４　11月3日「拓本をとろう」の様子

4月から6月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか?

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	対象（定員）
歴史体験	石ヤリをつくろう	4月30日(日)	13:30～16:00	小学生から一般（30）
	勾玉を作ろう①	5月28日(日)	13:30～16:00	小学生から一般（30）
歴史散歩	古墳見学①	5月14日(日)	9:00～17:00	小学生から一般（40）
	出羽島を歩こう	6月 4日(日)	10:30～15:30	小学生から一般（15）
野外自然かんさつ	磯のいきもの	5月14日(日)	11:00～13:00	小学生から一般（70）
	浜辺の植物	5月21日(日)	13:30～15:30	小学生から一般（20）
室内実習	春の野草かんさつ	4月23日(日)	13:30～16:30	小学生から一般（20）
	ミクロの世界 ー電子顕微鏡で昆虫を見よう①ー	6月 4日(日)	10:30～12:00	小学生から一般（10）
			13:30～15:00	小学生から一般（10）
	ミクロの世界 ー電子顕微鏡で化石を見ようー	6月18日(日)	10:00～12:00	小学高学年から一般（10）
			13:30～15:30	小学高学年から一般（10）
みどりの工作隊	花のペンダントをつくろう	6月11日(日)	10:00～12:00	小学生から一般（20）
ミュージアムトーク	小中学生のための地層と化石のはなし	4月15日(土)	13:30～15:30	小学高学年から一般（50）
歴史文化講座（海南文化館）	海陽町立博物館にある1つの印籠から	5月28日(日)	13:30～15:00	小学生から一般（50）
	中世修験道史再考	6月25日(日)	13:30～15:00	小学生から一般（50）
企画展関連行事	木の葉化石の発掘体験☆	5月 7日(日)	10:30・13:30・15:30	小学生から一般（各30）
	企画展「奇跡の化石たち」展示解説①	5月14日(日)	14:00～14:30	小学生から一般
	企画展「奇跡の化石たち」展示解説②	5月21日(日)	14:00～14:30	小学生から一般
	企画展記念講演会	5月28日(日)	13:30～15:30	小学生から一般（300）
その他	子どもの日フェスティバル	5月 5日(金)	9:30～16:30	小学生から一般

◎歴史文化講座・ミュージアムトーク・企画展関連行事・子どもの日フェスティバルは申込不要です。（☆は整理券を発行します。）
　その他の行事は記入例を参考にして往復ハガキでお申し込みください。（行事日の10日前必着でお申し込みください。）

◎室内実習「ミクロの世界ー電子顕微鏡で昆虫を見よう①ー」、「ミクロの世界ー電子顕微鏡で化石を見ようー」の申込は午前・午後の希望をお書きください。

◎企画展展示解説①・②、木の葉化石の発掘体験は企画展観覧料が必要です。（高校生以下は無料）
その他の行事は参加費無料です。

【記入例】

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 770-8070 往信 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館普及係	（何も書かないでください）	50 □□□-□□□□ 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者名（学年） 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館普及係へ（電話088-668-3636）

博物館友の会に入会しませんか!

　博物館友の会は、様々な活動を通じて自然や文化に親しむと共に、会員相互の交流をはかってます。
　2006年度も会員が計画した様々な行事が予定されています。皆さんも参加してみませんか?

■年会費　・個人会員2,000円
　　・家族会員3,000円
■会員の特典　・年間を通して博物館の常展示、企画展の観覧料が無料になります。
　　・博物館ニュース、催し物案内、会報等が送付されます。

絵図ウォーク（徳島城にて）

●詳しくは友の会事務局まで●
（電話088-668-3636）

博物館ニュース No.62

■発行年月日　2006年3月25日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070 徳島市八万町向寺山
TEL088-668-3636　FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/